

「その手は桑名の焼きはまぐり」

桑名市長(三重県)

伊藤徳宇



はじめに

桑名市は、三重県の北部、名古屋市の中心部から約25kmの圏内に位置する人口約14万人、面

積は136・68km²の都市です。

伊勢湾へと流れる木曾川・長良川・揖斐川の三大河川の最下流部にあり、これらの河川に沿って広がる平野部や、養老山地から連なる多度山など、水と緑豊かな、恵まれた自然環境のもと発展をしてきました。

本市は、近鉄名古屋線JR関西本線が並行して走り、桑名駅を基点として、岐阜県大垣市へつながる養老鉄道や、いなべ市へつながる三岐鉄道北勢線といった鉄道があり、地域の公共交通の拠点としての役割を担っているとともに、東名阪自動車道や伊勢湾岸自動車道、国道1号や23号、258号などの広域幹線道路が市内を通っており、インターチェンジが5カ所あり

ます。地理的優位性の高さから中京圏や関西圏のみならず、全国各地からもアクセスがしやすい交通・交流拠点となっており

東海道42番目の宿場町「桑名」

「その手は桑名の焼きはまぐり」、だじやれの元祖ともいわれるこの洒落言葉は、江戸でも桑名の焼き蛤がいかにも有名だったかを物語っています。『東海道中膝栗毛』の弥次郎兵衛・喜多八も、桑名でこの焼き蛤を肴に酒を飲んでいきます。

東海道42番目の宿場町である桑名は、旅籠の数では隣の宮宿に次いで多い宿場

でした。その理由としては、宮宿と桑名宿の間が近世東海道で唯一の海路、船での行程であったため、天候不良などで船が出ないこともあり、船待ちのため



昔は枯れた松かさなどを燃やしながら焼いた桑名の名物「焼きはまぐり」



海上七里を船に乗り、渡しに着いたことから「七里の渡」と呼ばれていた「七里の渡跡」

